

令和7年度 インクルーシブな学校運営モデル事業 中間成果報告会

令和8年2月20日(金)

岡山県教育庁特別支援教育課

本日の内容

- 1 本事業の目的
- 2 学校運営連携校
- 3 カリキュラム・マネージャー
- 4 連携協議会
- 5 交流及び共同学習を発展させた柔軟で新しい授業の在り方
- 6 現行の教員配置にこだわらない専門性を高めた授業実施のための体制構築の在り方
- 7 今年度本事業における成果・課題
- 8 次年度 of 取組のポイント

1 本事業の目的

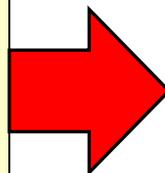
事業開始前における岡山県の課題

- ・共生社会の実現に向けて、インクルーシブ教育システムを推進するため、障害のある子どもと障害のない子どもが可能な限り共に学ぶ学校運営が重要になる。
- ・児童一人当たりの居住地校交流の実施回数が少なく、交流の視点中心で完結しがちである。
- ・子どもの居住地と学校周辺の地域という両コミュニティを踏まえた計画的・組織的な取組が必要。
- ・それぞれの学校の教育課程を踏まえた計画及び実施が、担任の負担になっている。

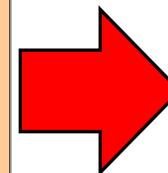
1 本事業の目的

本事業を通して達成を目指す目標

- ・小中学校、高等学校の児童生徒の多様性への理解向上
- ・小中学校、高等学校の教員の授業力と管理職の学校経営力の向上
- ・特別支援学校教員のセンター的機能に係る専門性の向上
- ・交流及び共同学習に係る保護者、地域の理解向上



- ・発展的な教育課程、授業づくりを行うためのキーポイントを提案。
- ・一体的な学校運営、計画的な人材育成のキーポイントを提案。

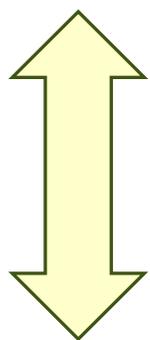


共生社会
の実現

2 学校運営連携校

岡山県立東備支援学校(障害種:知的障害)

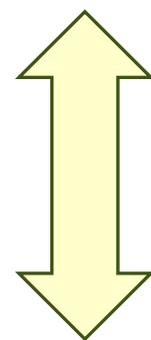
【児童生徒数127名(小学部:57名、中学部:34名、高等部:36名)】



2.7Km 車で約6分

備前市立西鶴山小学校

【児童数:40名】



6.8Km 車で約14分

岡山県立備前緑陽高等学校

(総合学科)

【生徒数:330名】

3 カリキュラム・マネージャー

【配置人数】1名（岡山県教育庁特別支援教育課所属）

【主な経歴】元県立特別支援学校長

（学校運営連携校である岡山県立東備支援学校でも勤務経験あり）

【本事業における役割】

- ・学校運営連携校の教育課程をコーディネート
- ・連携協議会を企画・運営
- ・各学校運営連携校の連絡、調整、助言
- ・交流及び共同学習における指導計画や単元づくりの相談

4 連携協議会

【構成人数】20名

【開催回数】3回/年

【外部専門家】大学教授、岡山県総合教育センター、備前市立西鶴山公民館長

【連携協議会において議論した主な内容】

- ・各校の教育課程の刷り合わせ
- ・教職員、児童生徒アンケートの分析
- ・児童生徒のもつ課題の共有
- ・交流及び共同学習の実施内容と振り返り
- ・専門性向上のための研修の実施内容について
- ・来年度の交流及び共同学習の取組の方向性

5 交流及び共同学習を発展させた柔軟で新しい授業の在り方

【発展の方向性】

備前市立西鶴山小学校と岡山県立東備支援学校(小学部)

- ・交流の視点だけでなく、共同学習の視点を加えて授業を計画・実施する。
 - 交流及び共同学習の事前の打ち合わせ、事後の振り返りを両校で行う。
- ・特別支援学校教員による出前授業

5 交流及び共同学習を発展させた柔軟で新しい授業の在り方

【実施内容】

備前市立西鶴山小学校と岡山県立東備支援学校(小学部)

- ・実施回数 8回(事前学習含む)
- ・実施教科と主な内容

| 学年 | 教育課程の位置づけ (西鶴山小学校) | 教育課程の位置づけ (東備支援学校) | 内容 |
|------|-----------------------|-----------------------|-------------------|
| 5・6年 | 総合的な学習の時間 | 図工 | 備前焼 |
| 2年 | 音楽 | 音楽 | 手遊び、歌唱、合奏、身体表現、鑑賞 |
| 3・4年 | 体育 | 体育 | フープ送り、リズムジャンプ |
| 1年 | 生活 | 算数 | あつめよう、かぞえよう |
| 5・6年 | 総合的な学習の時間 | 体育 | ボール運びリレー、表現運動 |
| 1年 | 課外 | 生活単元学習 | 一緒に遊ぼう |

5 交流及び共同学習を発展させた柔軟で新しい授業の在り方

【発展の方向性】

岡山県立備前緑陽高等学校と岡山県立東備支援学校(高等部)

- ・交流の視点だけでなく、共同学習の視点を加えて授業を計画・実施する。
 - 交流及び共同学習の事前の打ち合わせ、事後の振り返りを両校で行う。
- ・これまで交流及び共同学習を行っていた健康福祉系列以外の生徒とも交流及び共同学習の実施を検討。

5 交流及び共同学習を発展させた柔軟で新しい授業の在り方

【実施内容】

岡山県立備前緑陽高等学校と岡山県立東備支援学校(高等部)

- ・実施回数 5回(事前学習含む)
- ・実施教科と主な内容

| 学年 高校/特支 | 教育課程の位置づけ (備前緑陽高等学校) | 教育課程の位置づけ (東備支援学校) | 内容 |
|-------------|-------------------------|-----------------------|--------------------------------|
| 2年/1～3年 | 学校設定教科 | 職業 | 備前焼の窯出し |
| 2年/1～3年 | 福祉 | 社会・道徳 | 地域資源を活用した学習(車椅子体験) |
| 2年/1～3年 | 福祉 | 保健体育・道徳 | 地域資源を活用した学習(サッカー教室) |
| 2年/1～3年 | 工業 | 職業 | 出前授業(職業人としての心構え、働く意義、自動車の模型作り) |

6 現行の教員配置にこだわらない専門性を高めた授業実施のための体制構築の在り方

【備前市立西鶴山小学校と岡山県立東備支援学校(小学部)】

- ・授業参観
- ・職員研修(仲間づくり、多様性理解)
- ・東備支援学校学校祭見学

6 現行の教員配置にこだわらない専門性を高めた授業実施のための体制構築の在り方

【岡山県立備前緑陽高等学校と岡山県立東備支援学校(高等部)】

- ・授業参観
- ・学校見学
- ・備前緑陽高等学校オープンスクール参加
- ・備前緑陽高等学校校内研修(「障害特性の理解と支援について」)
- ・東備支援学校学校祭見学
- ・東備支援学校販売学習参観

7 今年度本事業における成果・課題

成果と課題

【備前市立西鶴山小学校と岡山県立東備支援学校(小学部)】

- ・両校の教員間で良好な関係が築け、お互いに意見を出し合いながら綿密な打ち合わせができるようになった。
- ・打ち合わせや振り返り等を通して、互いの学校の児童理解につながった。
- ・クラウドの活用等により、対面や電話以外の打ち合わせ方法を模索したい。
- ・両校で指導目標や配慮事項の確認や、通常学級で特別支援教育の視点を活かした授業を行っていくための教師の振り返りに活用するため、学校間交流用の指導略案の様式を新しく作成したい。
- ・共同学習としての学校間交流の質を高めていきたい。

7 今年度本事業における成果・課題

成果と課題

【岡山県立備前緑陽高等学校と岡山県立東備支援学校（高等部）】

- ・普段の学校生活では見せることのない姿を見ることができた。教職員の生徒に対する見方が変わった。
- ・「課題は色々あるが、少しやってみるは大切」、「一緒に活動することは心配ないのかもしれないと思った」等、不安や心配が和らいだ教員が出てきた。
- ・特別支援学校の教員が行う授業を参観して、特別支援教育の視点を活かした授業づくりについて考える教員が出てきた。

7 今年度本事業における成果・課題

成果と課題(本事業の実施を通じた児童生徒・教職員の意識等の変容)

【岡山県立備前緑陽高等学校と岡山県立東備支援学校(高等部)】

- ・教育課程のすり合わせがかなり難しい。
- ・特に、新しい学習活動を組み込むのではなく、高校側がもともと計画していた学習の中で、特別支援学校の生徒も一緒に取り組める学習をよせながら計画できるとよい。

7 今年度本事業における成果・課題

【事業最終年度に向けての展望】

- ・一体型でも併設型でもない学校間における交流において、はじめの一步を踏み出すためのキーポイントを明らかにする。
- ・公開授業
- ・事業報告会
- ・リーフレット作成

8 次年度の取組のポイント

【学校運営連携校における取組状況や成果等の横展開】

小学校と県立特別支援学校(小学部)の交流及び共同学習の実施にあたってのキーポイントと、高等学校と県立特別支援学校(高等部)の交流及び共同学習の実施にあたってのキーポイントをそれぞれ整理。

キーポイント(案)

- ・交流及び共同学習の推進役の指名
- ・管理職のバックアップ
- ・打ち合わせや振り返りの視点
- ・地域資源の活用

御清聴、ありがとうございました

岡山県教育庁特別支援教育課